［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日 平成20年12月2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401517
法人名	有限会社 さくらの里
事業所名	グループホームさくらの里
所在地	〒859-1505　長崎県南島原市深江町戊3135－15 （電　話）0957－72－3560

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801　長崎県島原市高島2丁目7217　島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月1日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】（ 平成20 年 11 月16 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 6 人
職員数	10 人	常勤 3 人 非常勤 7 人，常勤換算 3．9 人

（2）建物概要

建物構造	木 造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	9,000 円	その他の経費（月額）	光熱水費9,000円
敷　金	有（ 円）	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円	昼食	円
	夕食 円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円		

（4）利用者の概要（ 11 月 16 日現在）

利用者人数		6 名	男性 0 名	女性	6 名
要介護1		3 名	要介護2	1	名
要介護3		1 名	要介護4	1	名
要介護5		0 名	要支援2	0	名
年齢	平均	78 歳	最低 54 歳	最高	91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・前川歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年の11月休止していたホームを再開し、入居者は6名で少人数の手厚い支援にこだわったホームである。老人の立場は弱く守ってあげたいとの思いで開設に至った経緯があり、周辺の真っ赤に染まった木々は、正に運営者の心意気を映しているようである。調査中の会話では、「職員の生活安定」・「困っている人から入居を」・「早速実行しましょう」の言葉が印象的で、ラガーマンの心意気を感じる事が出来る。入居者同士は仲良く、外出・談笑する姿が目を引く。残存機能の維持向上を目指し、入居時は歩行困難だった人が自立して生活を仲間と楽しんでいる。「すべては入居者のために」を理念として、ホームに関わる全ての人が互いに無理しない生活に向けた今後のホームの取り組みに期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	開設以来初めての外部評価受審であり、この機会を改善の一端と考え真摯に受け止め、メモを取りながらの受審であり、向上に繋げる姿勢が窺えた。自己評価は現実に甘んじることなく、問題点を明確にして、今後出来ることは早急に取り組む予定であり期待できる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は管理者が原案を作成し、計画作成担当者、職員の順にチェックを行い、さらに集約をしての自己評価票を作成している。評価に向け、他ホームからの情報収集や相談を行い、積極的に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	ホームの再開（平成19年11月）から平成20年11月に初めて運営推進会議を開催しており、顔合わせの状態の会議内容であった。今後は定期的に開催予定である。構成メンバーを幅広く考えており、地域や家族（順番制）は複数の参加を考えている。平成21年1月の会議では外部評価を踏まえ、看取りに関する議題を中心に、充実した会議を検討中であり期待できる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	現時点では、家族に向けてホームの様子は会話のみで伝えているが、今後は季刊誌や手紙によるお知らせを行うことが望まれる。利用料を持参したり、集金で自宅訪問を実施し、家族と面談する事があり、金銭面での相談を受ける事がある。今後運営推進会議や便りにより、家族の興味をホームに向け支援していく予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	管理者の「何時でも寄って下さい」との声掛けで、交流が深まり、ホームの再開から1年足らずで、小学校（運動会・餅つき大会に招待を受ける）・幼稚園・地域の住人（隣人を招いての食事会や週4回位近くの老人が訪問）・グランドゴルフの見学・魚釣り・散歩等日々の努力により、馴染みの関係の確立が充実している。

2.　評　価　結　果（詳　細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「すべては利用者のために」を基本理念として、入居者が地域の人との関わりを持ちながら、日々の支援で悩んだ時は理念を思い起こし原点に返り、生活援助を実施している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げ職員を始め、訪問者にアピールしている。管理者は日頃から職員に、「理念は自分なりに解釈して、入居者に一番良い方向を取り入れること」と常に話している。職員は残存機能に配慮しながら、健康・衛生面に注意を払い、笑いながら楽しい生活支援を実践している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者の「何時でも寄って下さい」声掛けで、交流が深まり、ホームの再開から1年足らずで、小学校（運動会・餅つき大会に招待される）・幼稚園・地域の住人（隣人を招いての食事会や週4回位近くの老人の訪問）・グランドゴルフの見学等、馴染みの関係の確立が充実している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設以来初めての外部評価受審であり、改善の一端と考え真摯に受け止め、向上に繋げる姿勢が窺えた。自己評価は管理者が原案を作成し、計画作成担当者、職員の順にチェックを行い、実施項目を正確に記述し、問題点を明記した評価を実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの再開（平成19年11月）から平成20年11月に初めて運営推進会議を開催しており、今後は定期的に開催予定である。構成メンバーを幅広く考えており、地域や家族（順番制）は複数の参加を考えている。平成21年1月の会議では外部評価を踏まえ、看取りに関する議題を中心に、充実した会議を検討中である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側から積極的に連絡する事は少ないが、市町村からの問い合わせがある。現在公的扶助を利用している入居者があり、必要に応じて報告や訪問を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とは来訪時や、病状に関して必要時には連絡しているが、ホーム便りを含め、報告を形式（1名の入居者には一時期は写真等でお知らせした事があるが現在はしていない）としては伝えていない。金銭管理については、金銭出納帳を記帳し、入金時に家族の検印を受理している。	○	家族にとってホームでの生活は興味深い事であり、ホームの行事や様子を理解できる便りの発行（先ずは季刊誌から始められ、掲載に関する写真の利用同意書受理を含む）や毎月写真やコメントを書いた個別の手紙（例、入居者それぞれに対する手紙担当職員を決め）により、細やかな報告を期待したい。また、金銭出納帳の検印方法や領収書の保存方法の徹底が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料を持参したり、集金で自宅訪問を実施し、家族と面談する事があり、金銭面での相談を受ける事がある。今後運営推進会議や便りにより、家族の興味をホームに向け支援していく予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の生活を一番に考えており、安定した収入保持に尽力している。職員間の連携は連絡ノートにより、何でも言える関係を確立している。時には入居者から気遣う言葉を聞く事もあり、現時点では和気あいあいとした、安定した支援ができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームを再開し1年であり、定期的な職員会議の開催や内部研修･外部研修等、行っているが学ぶ機会が少なく、職員のスキルアップに向けての取り組みが見えない。また、受講記録や会議録がない。	○	入居者が6名で、職員は非常勤が多く大変ではあるが、全体職員会議の定期的開催（会議録の記述）･研修受講記録の作成（参加しなかった職員に情報の共有）･ホームにとって必要と感じる内部研修（例、服薬管理方法･看取り･事例検討･ケアの統一等）等学ぶ機会を設け、職員の育成への取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と計画作成担当者が他ホームと密接な関係を持ち、様々な情報入手や相談をしている。また、親しいホームの入居者とさくらの里の入居者が一緒にドライブに行く事もあり、積極的に関わりを持っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際し、運営者は困っている人を優先する事を徹底している。入居希望者は病院からが多く、入院先に出向き話しをして、ホーム見学や時には体験入居により、入居に至っている。入居後は経過を見ながら特別扱いをする事はなく、「帰ってよかよ」等の談笑を交わしながら、互いに無理ない関係確立に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在の入居者の数名は自己主張が可能であり、以前の生活の中で習得した技能を伝達でき、料理･裁縫･興味のあることを職員に教えたり、方言や慣わし等、会話を交わしながら一緒に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数の入居者の状況に関するコンタクトは取れている。入居者のしたい事を把握して日々の支援を実施している。また基本情報に家族構成や機能に関する情報を記入している。しかし、入居者が現在に至るまでの生活歴としては不十分である。	○	日々の会話で入居者の思いを理解する事は可能であるが、生活歴としてその人が現在に至った状況を理解する事も重要であり、関わりの中から入手する事も多々あり、全体像が理解できケアの統一に活かせる情報（例、禁句やキーポイントを盛り込み）を記入した基本情報の作成（情報入手時は追加記入）が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向や職員の意見を聞き、生命に関わる事を大切に考え、計画を作成している。作成後は本人または家族の同意を得ている。ケアチェック表で状況を把握し、計画書にはケア項目や留意点は簡潔に記述しており、画一的になりがちで個別的とは言いがたい。	○	計画作成に当たって、入居者の生命や安全面は非常に大切であり、計画に位置づけ支援する事は必要であるが、その人らしく生活を楽しむ支援を加味し、ケア項目や留意点に追加し、実施項目は誰が見ても分かり易い記述が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月でケアチェック表を基に入居者や職員の意見を踏まえて、モニタリングによりサービスの実行状況を把握し、見直しを実施している。また状態の変化に伴い、期間に関わらず新たな計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じた支援を目指し、医療連携･病院受診･家族の宿泊･昇降機の設置等、入居者が地域で安心し安定した生活が過ごせる為に柔軟に対応している。今後は地域を視野に入れた少人数のデイサービスを思考中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の総合病院から家族の了解を得て、近くの通院がスムーズにでき、相談を何時でも出来る病院に変える事があり、密接な関係を確立し、安心した支援へと繋げている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算に伴い、看取りに関する指針を作成し、入居時に家族に説明し同意を得ている。医療系でないホームにとっての看取りのリスクを十分理解しているが、現時点では、家族や職員間での共有にまでは至っていない。早急に運営推進会議の議題にして考えていく予定である。	○	高齢者のホームである面を考えると看取りに関する事は、免れない、何時発生してもおかしくない事と考え、ホームが取る方向性を明確にして、段階に応じた家族や医師の話し合いと、職員が取るべき支援の方法を今一度確認する事が重要である。全員で共有する方法について研修し、いざという時に活用できることが期待される。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	数名の入居者は自立しており、必要以上に介入する事を避け、目立たずさりげなく見守りを実施している。プライバシーに関しては日頃から注意を払い、書類の管理･言葉掛け･ケアには配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居当初は不安定であったが、数ヶ月を経過して自分に踏切がついたのか自発的に主張が出来るようになってきた。入居者は、外出を含め自分なりの生活に向けた変化が顕著に見え、生活の中でできる事やしたい事に取り組みを始め、職員は入居者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はステンドグラスの食堂でとり、入居者の楽しみの一環である。準備の手伝いはないが、後片付けは「置いとって、私達がするから」と入居者からの声が聞けた。1名は介助が必要で、他の入居者が優しく見守りながらの食事風景である。現在食事は一緒ではなく、職員の1名は介助にかかりきりであるが、他の職員は可能であり、今後取り組みたいとの事である。	○	入居者と職員が「皆で同じ鎌の飯を食べる」ということの大切さを理解され、同じ物を一緒に食べる事で、好みや味付け等で会話は弾み、絆が益々深まることも考慮し、楽しい食卓に向け尚一層の取り組みが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は月･木曜日が入浴日である。申し送りノートでどうしても不可能な時は違う日で対応する案も出ている。夏場は夕方や毎日シャワーを浴びる事や入居者の状態によっては清拭で対応する事があり、必要に応じて変化のある支援を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	殆どの入居者は活動的で、訪問者とも会話を楽しむ事が出来る。理念の「すべては入居者のために」を基に、無理強いすることなく、食器洗い･草取り･庭の掃除･繕い物（ミシン使用）･手芸･干し柿･買い物･魚釣り等したい事をしたい時にしており、笑顔で楽しみながら生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は天気が良いと殆ど毎日しており、入居しながら家族の結婚式や法事に参加する事がある。時には海岸で魚釣り･近くのグランドゴルフの見学･産業際を見に行く･近くの食堂で外食･ドライブ･墓参り等多岐に亘り、自立している人のみでなく、他の入居者も出来るだけ外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日頃から自由な外出を支援しており、施錠は行っていない。地域とはよりよい関係を目指し、理解へと繋げている。入居者が自室に紐で入れないようにする事はあるが、話し合いで解決している。今後徘徊者を想定し、情報提供の書類を準備する予定である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	12月2日に第1回目の消防署立会いの通報･避難･消火訓練を実施予定である。夜間想定の訓練、地震災害を含めた天災の訓練の実施はない。また、備蓄状況や非常持ち出し品の把握にまで至っていない。	○	災害対策は今後の問題であり、夜勤が1名で1階部分に運営者家族が居住しており、夜勤者の不安はやや軽減されてはいるが、夜間を想定した訓練実施や、天災（地震や台風）時の訓練、それに伴う備蓄品の確保や、非常持ち出し品の把握に関する話し合いによる確認が望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者にとって食事が生活の楽しみである事を理解し、他ホームや病院食のメニューを参考にして、バランスの良い食事を提供している。現在制限食の人は居ないが、入居者の状態によっては、咀嚼を考慮して柔らかくしたりほぐした食事を提供している。また水分は2リットルを目安に状態変化を見ながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当初ペンションとして建設していることから、外見はお洒落で食堂にはステンドグラスが設置してあり、入居者の喜びになっている。住宅が近隣にあるが静かで騒音を感じる事はなく、ホームの植え込みや近くの紅葉した木々から季節を感じる事ができる。入居者の身体機能を配慮して昇降機を設置し、2階での生活であるが安心を与えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は部屋によって、畳･フローリング･絨毯であり、どの部屋も個性的で、住んでいる人の生活が窺え、ミシン･テレビ･椅子･写真等生活に必要な物を持ち込み、その人の家として機能している。入居者が互いの部屋を訪問して、居室を生活の場として活用している。		